

社会でクリーニング業が担う役割

参議院議員

高階 恵美子

看護師として医療機関のほか、HIV感染の予防と感染者ケアを行うNGOへの参加や研究機関での勤務など、様々な現場に従事した経験を持つ高階先生。クリーニングについてもたくさんのお話をいただきました。

政治支援活動が身近にあった幼少時代

政治家になつたきつかけを端的に語るのには難しいのですが、当時の思いを振り返ると「時来たれり」と感じていました。

かつて衆議院議長を務めた伊藤宗一郎が私の父の親戚で、父が選挙参謀をして当選したという経緯があり、選挙支援活動をする家庭で幼少時代を過ごしました。支援活動で両親は夜も遅く休日も不在で、なんのメリットがあるのだろうかという思いもありましたが、見返りを求めるのではなく、自分自身がこの国

をつくるために行動する責任があるんだということを、両親に学びました。

政治への危機感

岡崎トミ子さんや土井たか子さんなど、政界で「マドンナブーム」があった当時、私は宮城県の職員で、保健所の保健師として働いていました。患者会を立ち上げ、障害をお持ちの方等がどのような暮らしやすい街に理解してもらって暮らすことに熱心に取り組んでいました。そのうちに取材がきたり、活動が盛んになってきたことが政治活動を

している方々の中でも話題になっていたらしいんですね。

当時は自分が政治

を担っていく立場と考

えていませんでしたし、生

涯を通じて看護の仕事をして

自分の役割を果たしていきたいと

考えていました。

一番の大きな転機は、平成19年の

参議院議員選挙で自由民主党が過

半数を割ってねじれ国会になった

ことです。当時は厚生労働省にお

りました。このままでは国政が6

年間止まると思いました。案の定

様々な審議ができなくなり、出すべ

き法案が滞ったり、政治の劣化が短

期間に進みました。こういったこ

とへの危機感と、平成22年の参議院

議員選挙のタイミングもあり、政治

の世界で今自分にできることを精



取材 山内苑子 / 写真 喜多絵美

一杯やってみたいという思いで立候補しました。

政治家になった今も、看護の仕事をしていると私は思っています。白衣を着て現場に立つことだけが看護ではなく、色々な形で知識や経験、技術を活かすことができると思っています。

日本舞踊や家庭環境で学んだ身だしなみ

身だしなみは、お目にかかる方



たかがい えみこ

●プロフィール

昭和38年に宮城県に生まれる。埼玉県立衛生短期大学、東京医科歯科大学医学部保健衛生学科卒業。看護師・保健師として社会保険埼玉中央病院、虎ノ門病院にて急性期医療に従事。中央アフリカ共和国にてHIV感染の予防と感染者ケアを行うNGOに参加。(財)東京老人総合研究所客員研究員、結核予防会結核研究所研究員、厚生労働省科学技術調整官、(社)日本看護協会常任理事等を歴任する。平成22年7月の第22回参議院議員通常選挙にて比例代表で初当選。参議院厚生労働委員会委員、東日本大震災復興特別委員会委員、社会保障と税の一体改革に関する特別委員会委員、自由民主党女性局次長、ネットメディア局次長等を務める。

無為自然
高階恵美子

感を提供してくださっていることは、普段の生活の中であまり知られていませんが、清潔な衣類を受け取る喜びや、働いてきちんと収入を得られる労働の場の提供等、今回の震災で私自身も実感させられました。今後は例えば夏の熱中症対策など、業界が培ってきたノウハウを提供することがあれば、また少しイメージも変わるのではないのでしょうか。

に不快な思いを抱かせないということが一番大事だと思えます。私は2歳半から日本舞踊を習っていましたが、舞台上立つ時は頭からつま先まで全部人に見られても恥ずかしくないように手入れをします。足袋が汚れていないか、髪の毛の結い方、袴と着物の色合いや生地を組み合わせまで、全て自分でやるわけではないですが、そういうことを通じて、身だしなみを整えることを学ぶ機会になっていました。

クリーニング工場をやっていたこともあり、身に付けるものを清潔で衛生的に扱うこと、人様の前に立った時に不快な思いをさせないことの大切さを学んだように思います。

清潔な洋服を着て欲しいという思いが伝わるように

クリーニングについては、職人の方が込めた思いがもつと伝わる場面があると思います。

例えば、学生の頃は部活をやっていたりすると忙しく、制服が汚れたまま始業式を迎えようとしていた時に、叔父が夜中に機械を回

してくれて、翌朝プレスを掛けたホカホカの制服を着て学校に行ったことがあります。

叔父は「きれいになった洋服を着せてあげたい」という思いをもつて仕事をしていて、皆さんもそういう思いで従事されていると思いますが、それをどれだけの利用者が感じているのかなど。

アイロンを掛けてきれいに仕上げるといふことに、どれほどの気遣いが必要なのかということが分かったら、お願いの仕方も変わるのではないのでしょうか。利用者も学ばなければならぬことがたくさんあると思います。

社会でクリーニング業が担う役割

東日本大震災の直後、宮城県石巻市の女性達が最初に職を得たのがクリーニングでした。

津波で全ての物がなくなっても身に付けるものは毎日必要で、クリーニング店は夜中の数時間以外はフル稼働していたと思います。そんな中で今までクリーニング業に携わることのなかった主婦の方や他の仕事をしていた方が、クリーニングの大事さに気づいたんですね。

病院の白衣やリネンにしても、クリーニング業者の方が必ず期限までに納品してくださるから安心して仕事ができます。見えない安心感を提供してくださっていること